

維新の会の光本圭佑でございます。

第9回定例会におきまして質問の機会を与えていただきましたことに感謝申し上げます。先輩、同僚議員の皆様におかれましては、しばらくの間ご清聴を宜しくお願い申し上げます。また、市長はじめ理事者の皆様におかれましては、私の意のあるところをお汲み取り頂まして、明快でわかりやすい御答弁を宜しくお願い致します。

今回は、5点、

「風疹ワクチンの接種費用助成について」

「2025年大阪万博に向けた本市の取組みについて」

「本市のたばこ対策について」

「尼崎城と本市の歴史文化について」

「市長の政治姿勢について」

です。

それでは、早速質問に入ります。

(1. 風疹ワクチンの接種費用助成について)

2013年に風疹が大流行しましたが、その大流行の前兆に類似した状況が現在起こっており、首都圏では風疹患者の増加が続いています。

風疹(3日はしか)とは、風疹ウイルスによって引き起こされる発疹性疾患です。典型的な症状として、発熱・発疹・リンパ節の腫脹があります。感染したにも関わらず、感染症状が発症しないことも多く、症状も比較的軽いことから見過ごされがちな疾患ですが、そのために気付かない間に周囲に感染を広げてしまう可能性があります。

風疹の感染経路は飛沫感染、接触感染です。

飛沫感染は、ウイルスを含んだ飛沫が咳やくしゃみ、会話などの際に飛び散り、それを吸い込むことで感染します。

接触感染は、ウイルスが付着した物などを触り、その手で口・手・鼻などを触り感染します。

今、この風疹の大流行が話題にされ、非常に危惧され、厚労省や日本産婦人科医会が警告まで発しているのは、妊娠初期の女性に感染すると、胎児に高い確率で先天性風疹症候群を引き起こし、難聴・先天性心疾患・白内障・精神や身体の発達の遅れ等の障害を持った赤ちゃんが生まれる危険があります。

これを防ぐには、風疹ワクチンを接種することが大切ですが、女性だけが接種すれば良いのではなく、男女ともに風疹ワクチンを受けて、風疹の流行を抑制することが大切です。

妊娠を希望される女性は、妊娠の2ヶ月以上前に風疹ワクチンを接種することが推奨さ

れています。妊娠中は風疹の予防接種を受けることができません。ワクチン接種後は2ヶ月間の避妊をする必要があります。1回のワクチン接種では免疫獲得が不十分であるため、妊娠を考えている人は、妊娠前に2回の予防接種を受けることが大切なのです。

ここで問題になってくるのが、世代別でワクチン接種状況が大きく異なるという点です。風疹のワクチンを接種するようになる現在の幼児から今年28歳になる人までは、風疹のワクチンを2回接種している可能性が高いですが、それより上の世代はワクチンを打っていない可能性が高く、抗体が十分ではない人の比率が高いと指摘されています。

参考資料①、世代別ワクチン接種状況をご覧ください。

3つの世代別に分けられますが、現在28歳より上の世代の男女に風疹の免疫が十分ではない人が多いのが現状です。

風疹の問題は妊娠を希望する女性や妊婦だけの問題ではなく、夫やパートナー、またご家族や職場の同僚など周りにいる全ての人の問題でもあります。

それでは、実際に何をすればよいかと言いますと、風疹に対する免疫があるかどうかを調べる風疹抗体検査を受けることです。

参考資料②をご覧ください。

本市でも風疹抗体検査を、妊娠を希望する女性やその同居者に無料で実施しています。しかし、検査日時が火曜日から金曜日の午前9時から10時のわずか1時間しかなく、抗体検査が男性にも非常に重要なことを考えると、この時間設定は妥当か疑問があります。

国立感染症研究所によると、今年に入ってから11月18日までの風疹感染報告は2,186人で、男性が8割を占めています。

西宮市では市から受診券一式を郵送し、申込み時に指定した医療機関に受診日時の予約をして抗体検査を受けることができます。

大阪市では風疹抗体検査キャンペーンを12月8日(土)、15日(土)と土曜日に実施することを呼びかけ、既に定員100名・計200名の予約枠はいっぱいとなっています。

Q1.そこでお尋ねします。

本市の風疹抗体検査は平日火曜日から金曜日の朝9時から10時までのわずか1時間しか実施されていませんが、風疹が大流行する兆しもある中、この検査日時で十分とお考えでしょうか。

また、西宮市や大阪市のような抗体検査を受けやすい取組みを今後実施するお考えはありますでしょうか。教えてください。

(2. 2025 年大阪万博に向けた本市の取組みについて)

2025 年国際博覧会、いわゆる万博の開催国を決める博覧会国際事務局総会が 11 月 23 日にパリで開かれ、日本時間 24 日未明に行われた加盟各国の投票で日本の大阪が選ばれました。大規模な万博としては 2005 年の愛知以来で、大阪では 1970 年以来 55 年ぶりの開催となります。過去の万博の開催実績や運営能力の高さなどが評価され、3 ヶ国による争いを制しました。

25 年大阪万博のテーマは「いのち輝く未来社会」で、人工知能(AI)や仮想現実(VR)などを体験できる「最先端技術の実験場」にするコンセプトを掲げています。150 ヶ国の参加を見込み、5 月 3 日～11 月 3 日の 185 日間で国内外から約 2,800 万人の来場を想定しています。

この 2025 年大阪万博について、招致活動の段階から本市が積極的に関わり盛り上げたという印象は全くありません。公共施設や市内でポスター等を見かけた記憶もありません。

Q2.そこでお尋ねします。

本市においては、2025 年大阪万博の招致活動に積極的に協力・参加する姿勢は見受けられませんでした。今回隣の大阪に決定し、本市にとってもかなり大きなインパクトを与えてくれることは容易に想像できますが、このまま静観する姿勢でしょうか。それとも、ここから積極的に関わって行くお考えなのでしょうか。教えてください。

(3. 本市のたばこ対策について)

本年 6 月に「尼崎市たばこ対策推進条例」が制定されました。

この条例は、市、市民、事業者などが協力してたばこ対策に取り組んでいくためのルールとなるものです。条例では、主に禁煙の支援、受動喫煙の防止、市内全域での歩きたばこの禁止、たばこの吸い殻のポイ捨て禁止、また路上喫煙禁止区域を指定することなどを定めており、本年 10 月 1 日に施行されました。

Q3.そこでお尋ねします。

本条例が制定されて約半年、施行されて 2 ヶ月弱が経過しましたが、条例を制定・施行したことによる効果と、新たに見えてきた課題等があれば教えてください。

(4. 尼崎城と本市の歴史文化について)

先月の 11 月 30 日に施主で家電量販店ミドリ電化創業者の安保証さんが、本市に尼崎城を寄贈してくださいました。尼崎と城の歴史を紹介する体験型の内部展示を整え、来年 3 月 29 日に一般公開されます。

これと並行して、尼崎市立文化財収蔵庫も約 14 億円かけて改修され歴史館機能が整備されることになり、本市としては今までにないほど歴史文化に力を入れています。

本市ホームページでは、「市内の久々知にある広済寺に、日本が世界に誇る江戸時代の劇作家、近松門左衛門の墓所があることから、1986 年(昭和 61 年)の市制 70 周年を契機に「近松」を文化振興のシンボルと位置付け、「近松」を核とした文化・教育・産業・環境整備のトータルなまちづくりに取り組んできました。」と書かれています。

しかしながら、「近松のまち・あまがさき」と謳い、近松推進事業も実施されてはいますが、この近松門左衛門を今後どのように活用していくのか本市の考えや戦略が全く見えません。

Q4.そこでお尋ねします。

尼崎城が完成し、尼崎市立文化財収蔵庫も改修され歴史館機能が整備される中で、市制 70 周年時に文化振興のシンボルと位置付けた「近松」を今後どのようにしていくお考えなのでしょうか。教えてください。

(一問一答 Q1-1)

風疹に関しては、妊娠を希望する女性や妊婦だけの問題ではなく、夫やパートナー、またご家族や職場の同僚など周りにいる全ての人の問題でもあります。

そのような中、市内でも妊娠を希望する女性や妊婦により多く接する課があります。

例えば、妊娠等相談窓口を開設している、

- ・北部保健福祉センター 地域保健課
- ・南部保健福祉センター 地域保健課
- ・保健所健康増進課

などです。

ここに入出入りする職員にも風疹に対する免疫があるかどうかを調べ、必要であれば風疹ワクチンを接種する必要があると思います。

Q1-1.そこでお尋ねします。

役所から風疹を蔓延させることがないよう、また妊娠を希望する女性や妊婦に安心・安全をご提供できるよう、特に接することの多い課の職員は風疹の抗体検査やワクチン接種を行うべきだと考えますが、職員の抗体の有無・ワクチン接種の有無は調べているのでしょうか。また、不明の職員には抗体検査を、抗体がない職員にはワクチン接種を受けるよう指導は行っているのでしょうか。教えてください。

(一問一答 Q1-2)

5年前の2013年にも風疹が大流行しました。

その時は、本市でも妊婦への感染拡大防止を図り、子どもの先天性風疹症候群の発生を予防するため「風しん予防接種助成事業」が実施されました。

1名につき1回のみで助成額は5,000円、内訳は県2,500円、市2,500円でした。

今年、2013年の大流行の前兆に類似した状況が起こっており、首都圏では風疹患者の増加が続いていることを考えると、県の助成を待たずに市単独でも「風しん予防接種助成事業」を再び実施する必要があると思います。

箕面市では「抗体価の低いおとなの風しん予防接種費用の助成」として、風疹抗体検査を受け、抗体が十分でないという結果を条件に、6,000円を助成しています。

大阪市でも風疹抗体検査を受け、抗体が十分でないという結果を条件に、麻しん風しん

混合ワクチンの場合は上限 10,011 円を、風しん単独ワクチンの場合は上限 6,317 円として助成しています。

Q1-2.そこでお尋ねします。

風疹が大流行した 2013 年に本市でも実施していた「風しん予防接種助成事業」を、大流行の前兆に類似した状況が起こっている本年度も実施すべきだと思いますが、いかがお考えでしょうか。

(一問一答 Q1-3)

厚生労働省でも公的なワクチン接種の機会がなかった 39 歳～56 歳の男性に対し、抗体検査やワクチン接種を定めることを決め、検査や接種費用の無料化を検討しています。

Q1-3.そこでお尋ねします。

日頃から、課題解決先進都市と謳うのであれば、また、子育てしやすいまちづくりを謳うのであれば、国がワクチン接種費用の無料化を決定するまでの間、「風しん予防接種助成事業」を継続し、さらに 2 回目の接種まで助成を拡大していくべきだと思いますが、いかがお考えでしょうか。

(一問一答 Q1-4)

箕面市や大阪市では、風疹抗体検査を受け抗体が十分でないという結果を条件に助成を行っていますが、ワクチン接種率を上げるには風疹抗体検査を飛ばし「いきなりワクチン」も 1 つの手ではないかと思います。

Q1-4.そこでお尋ねします。

「風しん予防接種助成事業」を実施する際に、風疹抗体検査を条件としない場合のメリット・デメリットは何がありますか。また、本市で風疹抗体検査を条件とせず「風しん予防接種助成事業」を実施するお考えはありますか。教えてください。

(一問一答 Q2-1)

政府は25年大阪万博の経済効果を全国で約2兆円と試算し、20年東京オリンピック・パラリンピック後の日本の景気浮揚策に位置付けています。大阪府・市は万博に合わせて会場となる大阪湾の人工島・夢洲でカジノを含む統合型リゾート(IR)の開業も目指しており、今後、地下鉄延伸や湾岸エリアの再開発などインフラ整備が加速するとされています。

このタイミングで尼崎市も積極的に絡んで行くべきだと思います。

井戸敏三兵庫県知事は、「神戸市にサテライト会場を作ってもらいたい」と述べ、会場である大阪湾の人工島・夢洲から神戸市のポートアイランドや六甲アイランドまでを「直線距離ならとても近い」と強調し、久元善造神戸市長が神戸空港などと海路で結ぶ構想を示していることに「一番現実的で刺激的なアイデア」と賛同もしています。

このまま何も本市が動かなければ、神戸市と夢洲が繋がり、尼崎市は通過されるだけの市、または通過さえされずに飛ばされる市になる可能性もあります。

尼崎南部からフェリーで繋ぐ、南部の土地に大阪万博の工事関連・運営関連等の宿舎を建設する、大阪の隣の立地の良い本市の土地を活用してもらい、などなどダメ元でも、この夢ある、わくわくドキドキする案件に食らいつくべきだと思います。そしてこれをチャンスに本市の南部エリアをもう一度活性化させるべきです。

Q2-1.そこでお尋ねします。

今こそ、本市のトップであり、また、一般社団法人あまがさき観光局のトップでもある市長が大阪府・市や兵庫県に対して自らセールスをし、交渉を行っていくべきだと思います。市長のご見解をお聞かせください。

(一問一答 Q3-1)

一市民でもある私の肌感覚では、「尼崎市たばこ対策推進条例」が制定されて約半年、施行されて2ヶ月弱経過しているにも関わらず、受動喫煙の意識の高まりは感じられず、市内全域で歩きたばこが禁止されていることも認知されているように感じられず、たばこの吸い殻のポイ捨ては依然として行われており、路上喫煙禁止区域も認知されていないと感じています。

鉄は熱いうちに打てではないですが、条例制定・施行のタイミングこそ広く周知し、深く認知してもらうチャンスだと思います。

財政的に厳しいこともあり違反者への過料等の罰則はなく、そのことが本条例の市民関心を高めにくいことに繋がっているのかも知れませんが、過料等の罰則を設けていたらかかっていたらろうコスト約2,000万円の何割かでもしっかりと予算を取って、来年度もっと強く、確実に推し進めて行くべき重要な施策だと私は考えています。

Q3-1.そこでお尋ねします。

来年度、本市のたばこ対策はどのように進めて行く計画でしょうか。また、予算の問題もあるとは思いますが、現場を知る担当課としては今の早い段階で本当にやらなければいけないことは何だとお考えでしょうか。教えてください。

(一問一答 Q4-1)

本市のホームページには、「「近松」を核とした文化・教育・産業・環境整備のトータルなまちづくりに取り組んできました。」と書かれていますが、近松門左衛門の墓所がある広済寺で毎年開催される大近松祭への予算も年々削られ、広済寺に隣接する近松記念館は地元地域の方々が手弁当で運営している状況です。

尼崎城が公開され、尼崎市立文化財収蔵庫も約 14 億円かけて改修され歴史館機能が整備されると、そのエリアに歴史文化ファンが集中し、市内の歴史文化スポットに流れない可能性があります。

尼崎城周辺のスポットはまだ可能性はありますが、広済寺や近松記念館、また富松城などのエリアまで歴史文化ファンが周遊する仕組み作りを、地元地域の方々の創意工夫に頼り過ぎるのではなく、市が先頭に立って行っていく責任があると思います。

Q4-1.そこでお尋ねします。

尼崎城や歴史館だけではなく、市内に点在する歴史文化スポットにも観光客が訪れるように、どのような仕組み作りをお考えでしょうか。また、各歴史文化スポットへの予算配分を今後どのようにしていくお考えでしょうか。教えてください。

世代別ワクチン接種状況

■1962年4月2日（現在56歳）～79年4月1日（同39歳）生まれ：

中学生の時に女性のみを対象として、学校で集団接種が行われていたため、自然に風疹に感染する機会が減少しましたが、男性は定期接種制度が行われていないので、風疹の免疫がない人が多い世代。

■1979年4月2日（同39歳）～87年10月1日（同30歳）生まれ：

男女とも中学生の時に予防接種を受ける対象になっていましたが、中学生のときに個別に医療機関で予防接種を1回受ける制度であったため、接種率が低く、風疹の免疫がない人が多い世代。

■1987年10月2日（同30歳）～90年4月1日（同28歳）生まれ：

男女とも幼児のときに予防接種を受ける対象となり接種率は比較的高く、自然に風しんに感染する機会がさらに減少しましたが、個別接種1回の時期だったため、風疹の免疫が十分ではない人が多い世代。

※参照：厚生労働省「なぜ大切？風しんワクチン」

第9回定例会 参考資料②

維新の会 光本圭佑

対象者

尼崎市に居住し次の項目のいずれかに該当し、検査を希望する方

1. 妊娠を希望する女性（将来の妊娠を含む。）
2. 妊娠を希望する女性（将来の妊娠を含む。）の同居者
3. 風しん抗体価が低い妊婦の同居者

ただし、次の項目のいずれかに該当する方は対象外です。

1. 過去に風しん抗体検査を受けたことがある者
2. 風しんの予防接種歴がある者
3. 検査で確定診断を受けた風しんの既往歴がある者

申込方法

事前に電話での予約が必要です。

検査を希望する方は、検査希望日の前日までに尼崎市保健所疾病対策課（電話：06-4869-3008）まで電話にて申し込みしてください。

予約状況により、ご希望の検査日をご予約できない場合もありますので、予めご了承ください。

また、予約時に対象者要件を確認させていただきます。該当されない場合は検査の予約ができませんのでご注意ください。

場所

尼崎市保健所疾病対策課

尼崎市七松町1丁目3番1-502号 フェスタ立花南館5階

検査日時

火曜日から金曜日 午前9時から10時

（注意）年末年始、祝日は除きます。

直接尼崎市保健所疾病対策課の窓口（4番窓口）にお越しください。検査結果は郵送通知です。